



TITLE:

京大広報 No. 214

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 214. 京大広報 1981, 214: 107-112

ISSUE DATE:

1981-04-15

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209472>

RIGHT:

ファイル中には未許諾による非表示部あり.

京大広報

No. 214

京都大学広報委員会



農学部・農業研究施設 ー関連記事本文 111 ページー

目 次

昭和55年度の京都大学創立七十周年

記念後援会助成金交付者…………… 108

3月20日の現場検証および

4月2日の捜索・押収…………… 109

〈随 想〉

昨今の私と浜田総長生誕百年の月に想うこと

名誉教授 藤岡謙二郎………… 110

〈紹 介〉

農学部・農業研究施設…………… 111

日 誌…………… 112

＜大学の動き＞

昭和55年度の京都大学創立七十周年
記念後援会助成金交付者

京都大学創立七十周年記念後援会助成金選考委

員会で決定した昭和55年度助成金交付者は、第1種（海外派遣研究員）17名、第2種（海外からの招へい学者）6名、第3種（海外派遣学術調査隊）2グループ、第4種6名で、それぞれ次のとおりである。

1. 第1種

本学教官が、専攻する学問分野等について調査・研究のため、海外に派遣される場合に助成金（往復航空賃及び日当・宿泊料）を交付するものである。派遣期間は、1) 1か月、2) 約3か月、3) 約6か月である。

派遣期間	所属部局	職名	氏名	研究題目
6か月	医学部附属病院	助手	山本逸雄	副甲状腺ホルモンと受容体に関する研究
ク	農学部	教授	丸山利輔	かんがい排水のシステム工学的研究
ク	人文科学研究所	講師	前川和也	シュメール楔形文書群の調査・研究
3か月	医学部	教授	翠川修	悪性腫瘍とくに癌の病因究明に関する地理病理学的研究
ク	大型計算機センター	助手	渡邊豊英	データベースの現状及び将来のソフトウェア技術に関する調査・研究
1か月	学生懇話室	助教授	石井完一郎	学生自殺とその近縁問題についての疫学的研究
ク	教育学部	教授	蜂屋慶	「自己表現」の教育人間学的研究
ク	法学部	助教授	森本滋	ヨーロッパ共同体における会社法の統一
ク	経済学部	教授	菱山泉	資本と分配の理論の研究
ク	理学部	教授	大西俊一	第9回国際生物系磁気共鳴会議出席及びパリ第7大学との共同研究打合せ
ク	医学部附属病院	教授	一色信彦	頭頸部の形成外科に関する研究調査
ク	工学部	教授	兵藤知典	核融合炉中性子工学に関する研究調査及び「米国原子力学会第26回年会」に出席
ク	工学部	教授	上田顯	統計物理学特に液体論に関する研究調査及び「液体及びアモルファス金属に関する第4回国際会議」に出席
ク	教養部	教授	大塚香代	実体の構造と実体への附値論の拡張に関する研究
ク	化学研究所	教授	井上雄三	キラルな NADH モデル化合物を用いるケトンの不斉還元に関する研究調査
ク	木材研究所	教授	越島哲夫	糖・リグニン結合体の接合部の化学構造研究成果発表及び研究調査
ク	経済研究所	教授	青木昌彦	計量経済学会世界大会出席及び研究調査

2. 第2種

海外から学者を本学に招へいし、講義・研究指導等を依頼して、その分野の研究発展をはかるために助成金（往復航空賃、鉄道賃及び滞在費）を交付するものである。招へい期間は、原則として1～3か月である。

受入部局	招へい学者名	国名・所属機関及び職名	研究題目
文学部	陳慶華	中華人民共和国 北京大学歴史系教授	中国近代史 辛亥革命の研究
文学部	Denise Brahimi-Chapuis	フランス国 Paris 第7大学専任講師	比較文学 旅行文学に関する研究

理 学 部	Robert M. Miura	カナダ国 British Columbia 大学 教授	応用数学 流体力学, 非線型問題, 偏微分方程式論, 漸近法及 びその物理, 化学, 生物物理学への応用
農 学 部	Kenneth L. S. Harley	オーストラリア国 連邦科学産業研究庁 Long Pocket 研究所主 任研究官	雑草防除 雑草の生物的防除に関する研究
霊長類研究所	Gasana Ndoli	ザイール国 Zaire 国立科学研究所生 物学部門部長 霊長類学部門部長(併任)	動物生態学 ザイール国東部に生息する霊長類の生態学的研究
事 務 局	西北大学学術視 察団	中華人民共和国 西北大学 郭 琦校長 外6名	本学と西北大学との学術交流に関する協議及び施設 視察

3. 第3種

海外において, 調査研究を行う本学の学術調査隊であって, 原則として国費などの支給を受けるものを対象として, 助成金(調査に要する経費と支弁される国費との差額の一部)を交付するものである。

代 表 者	調 査 名
理 学 部 助教授 中 川 一 郎	重力計定数の高精度決定及び国際重力基準網1971の維持改良に関する研究
霊長類研究所 教 授 野 沢 謙	インドネシア地域におけるマカカ属サル種の分化に関する研究

4. 第4種

総長及び総長が大学行政上特に必要と認めたものの外国出張に対し, 助成金を交付するものである。

職 名	氏 名	期 間	派 遣 目 的
総 長	沢 田 敏 男	昭和55. 8. 16~55. 8. 28	IAU(国際大学協会)第7回総会出席並びに東南アジア諸国における高等教育・研究機関の視察及び学術交流に関する意見交換のため
事 務 局 長	大 塚 喬 清	56. 2. 26~56. 3. 11	欧州諸国及びイスラエルの高等教育・研究機関における研究体制及び行政財政制度に関する調査のため
庶務部庶務課長	内 藤 貞	56. 3. 11~56. 3. 25	欧州諸国の高等教育・研究機関における研究体制及び行政財政制度に関する調査のため
経理部主計課長	吉 沼 一	56. 4. 20~56. 4. 29	東南アジア諸国の教育・研究機関における管理運営とくに財政制度について調査するため
学生部厚生課長	久 米 康 之	55. 8. 16~55. 8. 28	東南アジア諸国における大学の管理運営並びに厚生補導体制の実情調査及び IAU 第7回総会出席のため
庶務部国際主幹付第一渉外掛長	木 村 斐 夫	56. 4. 20~56. 4. 29	東南アジア諸国の教育・研究機関における学術交流の実情及び同機関の管理運営について調査するため

3月20日の現場検証および

4月2日の捜索・押収

さる3月5日(木)文学部建物周辺路上の暴力行為被疑事件に関する警察の現場検証が, 3月20日(金), 文学部東館西側道路ならびに同館および同本館北側道路について行なわれた。

この日の現場検証は, 本学関係者立会いの午前9時10分から始まり同10時10分頃終了した。

さらに, 4月2日(木), 上記被疑事件に関する警察の捜索が, 文学部学友会ボックスおよび教養部尚賢館について行なわれ, ビラ類等が押収された。関係部局長等が立会人となり, 午前9時すぎから始まり同10時すぎ終了した。

< 紹 介 >

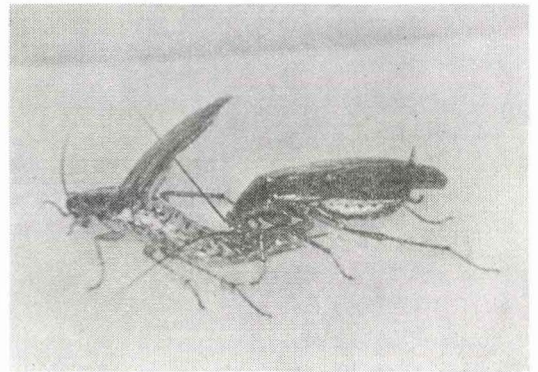
農学部・農薬研究施設

本研究施設は昭和38年に設置された。当時のわが国の社会背景には遮二無二の食糧増産の必要性も漸く消え去り、それまでの10年余りの合成農薬一辺倒の病虫害防除による農業形態に反省の色が見え始め、環境との調和が求められるようになってきた。より安全な農薬開発の社会的要請に応え、とともに、体系化のきざしを見せる「農薬学」の発展にも寄与することを目的に農薬研究施設が設置されたのである。

設立当初より害虫や植物病原菌の生理生態の基礎的な解析研究から、その制御に関与する化学的因子を追究することによって新しい農薬を開発する基盤を築くことを目的として、昆虫生理学、植物病理学などの分野の研究者と有機化学の研究者が同じ屋根の下に会して緊密な共同研究を続けてきた。幸いにして、昭和41年さらに1部門の増設が認められ、ますますその実をあげる態勢が整備されるにいたった。現在、専任教官8名、併任教官2名、事務官1名、技官2名によって運営され、大学院学生9名、研修員3名が研究に従事している。研究室は農学部グラウンドの南向いに鉄筋コンクリート2階建の本館とそれに付随するガラス室や昆虫飼育室から成り立っている。

現在までの研究成果の主なもの概略を次に紹介しよう。まず、昆虫の性フェロモンの研究があげられよう。昆虫のなかには雌が匂いを分泌して雄を誘引し交尾にいたるものが多い。この匂い物質を性フェロモンという。性フェロモンは同じ種

の雄だけが誘引され、しか作も用が極めて微量で発揮される特徴をもっている。今までに、本研究施設では数種の鱗翅目昆虫の性フェロモンを化学的に明らかにした。さらに、ゴキブリの性フェロモンの研究も実施され、なかでも、チャパネゴキブリの性フェロモンは匂いとして分泌されるのではなく、雌の触角の表面に分布し、雄が触角で触れることによって、はじめて感知され、雄に特徴ある一連の配偶行動を誘起する風変りなフェロモンであることを明らかにし、世界的に注目された。現在、数種のゴキブリが飼育されており、時折の見学者の興味の的になっている。

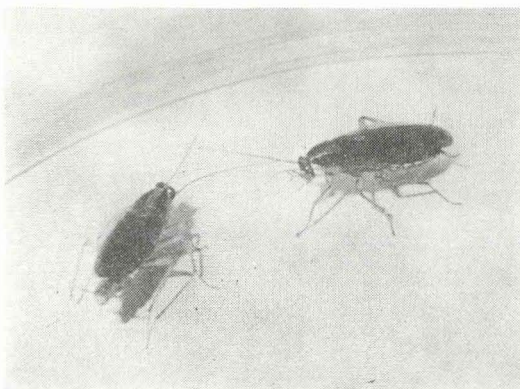


チャパネゴキブリの配偶行動 (2)

次に、イネの重要な害虫であるウンカ類の寄主植物選択機構の研究がある。何故ウンカがイネを寄主として選ぶのかを追究したものである。結論だけを言えば、トランス・アコニット酸という植物界に普遍的な化合物がイネには欠落している事実が主要因である。何故なら、トランス・アコニット酸はトビイロウンカに対する強力な摂食阻害作用を示すからである。

さらには、リンゴ斑点落病菌の宿主選択機構の研究がある。インドリンゴという品種が広く栽培されるに及んで新しく発生をみた病害で被害も大きい。従来の紅玉や國光などには発生しない。何故、リンゴの栽培品種の間に、これだけの差があるのかを追究した研究である。AM-トキシンと名付けた宿主特異的毒素の化学構造まで明らかにしたものである。

最後に、イネの重要病原菌であるイモチ病菌の有性世代の誘導に関する研究をあげよう。イモチ菌は通常菌糸の分裂で増殖する無性世代を繰返す



チャパネゴキブリの配偶行動 (1)

が、ある条件下で、はじめて有性世代を誘導できる技術を完成し、種々のイモチ菌の交配が可能になり、遺伝学的な立場からの研究が進捗し、興味ある成果を生み出している。

このような研究環境にあるので、今後も、昆虫

生理学や植物病理学といった生物学にも強く、同時に有機化学にも強い大学院学生が輩出し、この境界領域の発展に貢献する研究者の養成もまた一つの目的と考えている。

(農学部)

日 誌

(1981年3月1日～3月31日)

3月2日 中華人民共和国中国社会科学院代表团团长
(中国社会科学院副院长) 宦 郷氏外5名来学、総長および関係教官と懇談ならびに理学部附属大津臨湖実験所、人文科学研究所、経済研究所訪問(3日まで)

3日 安全委員会

4日～5日

入学者選抜学力試験(第2次学力検査)実施
医療技術短期大学部入学者選抜学力試験実施

10日 評議会

〃 保健衛生委員会

11日 国際交流委員会

13日 環境保全委員会

17日 オーストラリア国 Monash 大学副学長 R. L. Martin 氏来学、総長および関係教官と懇談ならびに学内施設見学

19日 原子炉実験所学術講演会

20日 医療技術短期大学部卒業式・専攻科修了式

23日 修士学位授与式

〃 博士学位授与式

〃 連合王国 The British Council 事務局長 John Burgh 卿外4名来学、総長と懇談

24日 卒業式

〃 発明審議委員会

25日 インドネシア国教育文化省高等教育総局総局長 Doddy A. Tisna Amidjaja 氏外3名来学、学生部長および関係教官と懇談ならびに学内施設見学

27日 附属図書館商議會

〃 創立七十周年記念後援会助成金選考委員会

30日 ソビエト連邦共和国 Moscow 大学学長 A.A. Logunov 氏外3名来学、国際交流委員会委員長および関係教官と懇談